

調查結果報告書要旨

調査結果報告書要旨

(1) 調査の概要

①調査の目的

本調査は、2020 年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動の意識・行動等を把握することにより、2021 年度以降の就職・採用活動の円滑な実施に資することを目的として実施した。

②調査の実施方法

地域、設置主体、規模等を勘案して選定した全国の約 60 の大学に協力いただき、それらの大学から、大学 4 年生及び大学院修士課程（博士前期課程）2 年生¹にアンケート調査への協力を依頼していただいた。なお、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生については調査の対象外である旨を案内の上で実施した²。

各学生には、インターネット上に開設したアンケート調査のホームページにアクセスし、回答していただいた。ホームページは、2020 年 7 月 22 日から 8 月 21 日までの間開設した。

③回答状況

対象学年別の有効回答件数は次の図表の通りである。なお、社会人経験があり元の職場に復帰予定の者や、進学等を予定しており就職活動をする予定がない者等については、集計の過程において、適宜対象から除いて集計を行った。

<学年別の有効回答件数>

対象	大学 4 年生	大学院 2 年生	合計
有効回答件数	5,643	1,679	7,322

※学年について「その他」と回答があった 132 件については有効回答の対象外とした。

¹ 以下「大学院 2 年生」と表記する。

² 本調査は、全国の約 60 の大学について、原則として対象学年の全学生に対し調査の案内をしていただくように依頼をしたが、調査依頼を行う大学のなかには、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生が多く在籍する大学があると想定された。医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生は、就職・採用選考活動に関してその他の学生とは異なる動きとなる場合が多いと予想されたが、これらの学生が調査対象全体に占める割合を母集団の分布等に基づいて事後的に調整を行うことが困難であると考えられたため、あらかじめ調査対象外とすることとした。なお、本資料に記載・言及している 2016 年度から 2019 年度の各調査においても同様の方法で実施している。2015 年度調査では医学科等の学生や留学生も調査対象に含めているが、2015 年度調査は調査依頼を行っていただく学生の人数を各大学に割り当て、対象学生は各大学で抽出してもらうという方法をとっている。また、抽出の際の男女比や文系・理系の比率は大学全体の構成比と同率にさせていただくよう依頼を行っており、2015 年度調査において医学科等の学生や留学生が母集団との関係において過度に多く含まれてしまうことは生じていないものと想定される。

(2) 本調査のまとめ

①新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響について

～企業説明会等の延期・中止による情報収集不足や、見込んでいたスケジュールとズレが生じるなど、就職活動への影響が見られた

就職活動全般について新型コロナウイルス感染症の影響を受けたかについて「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約8割となっている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて課題になったこととして、「企業説明会が延期・中止になる等、移動や対面での接点がなくなり、企業や仕事などの情報収集が十分にできなかった」が約6割となっている。また、「移動で公共交通機関を使うことに関し不安が大きかった」が約5割、「予定の変更・中止等が頻繁にあり、スケジュール管理が難しかった」が約4割となっている。

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から行われた緊急事態宣言等の影響により、見込んでいた時期よりも就職・採用活動の実施時期を遅くする企業があり混乱した」と認識している回答も約7割となっており、想定通りに就職活動が進まなかったことによる混乱もあったとみられる。

また、今年度調査時点で内々定を受けたと回答する割合が過年度調査と比較して低くなっており、内々定の獲得状況・獲得時期に関しても新型コロナウイルス感染症の影響が及んだものと考えられる。

②面接等のオンライン化の状況について

～採用面接は多くがウェブ等で実施された

企業説明会やセミナー等への参加方法について、学生が参加した件数に占める「ウェブ等のみでの参加」の割合は、約5割となっている。同様に、学生が受けた採用面接の件数累計に占める「ウェブ等のみでの実施」の割合は、約6割となっている。

なお、これに伴う課題として、「通信回線が不安定で、企業説明会や面接の途中で音声・映像が途切れるなどしたことがあった」との回答割合が約4割となっている。

③就職・採用活動の動きについて

～就職・採用活動の開始時期は早期化の傾向が継続していた

広報活動開始時期は卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降とされているところではあるが、企業説明会やセミナー等への最初の参加時期を卒業・修了前年度の「9月以前」とする回答割合が上昇している。

採用選考活動開始は卒業・修了年度の6月1日以降とされているところであるが、「最初に受けた面接の時期」は、過年度と比較して、2月以前の割合が上昇し、累計で見ると4月までに約9割の学生が面接を受けるなど、早期化の傾向がみられている。なお、採用面接の「ピーク」と「最後」に関しては、過年度調査と比較して、より遅い時期の回答割合が若干上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響により、時期の後ろ倒し等の見直しがあったものと考えられる。

内々定の時期については、過年度よりも早い時期の回答と、若干遅い時期の回答との両方が認められる。

④インターンシップについて

～参加する学生の割合は上昇傾向が続いており、参加時期も早くなっている

インターンシップについては、「参加したことがある」との回答割合が約 8 割、特に「複数回参加したことがある」との回答割合が約 6 割となっており、2019 年度調査よりも上昇している。参加時期としては大学 3 年生時・大学院 1 年生時の「7 月～9 月」が最も多くなっており、「7 月～9 月」「10 月～12 月」の回答割合が過年度よりも上昇している。

参加したインターンシップが半日間又は 1 日間のプログラムである割合は、年々増加してきたが、今年度は 2019 年度と同程度になっている。また、参加したインターンシップについて「採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた」との回答割合は約 3 割となっており、2019 年度調査と比べると割合が若干上昇している。

⑤就職・採用活動の設定時期について

～就職・採用活動の時期が昨年度と同じ時期に設定されたことについては、学生から肯定的な回答が多く、ルールが必要との回答割合も高い

今年度の就職・採用活動日程（広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の 3 月 1 日以降、採用選考活動開始：卒業・修了年度の 6 月 1 日以降）について、今年度に就職活動を行った現在の大学 4 年生及び大学院 2 年生の多くは、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」、「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」などの点で肯定的な認識を示している。

また、いわゆる「就活ルール」について、「ルールは必要ない」の回答割合が 2019 年度と比較して上昇してはいるものの、回答者全体の約 7 割の学生が「ルールが必要」と回答し、回答者全体の約 4 割が「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」と回答している。

広報活動開始時期前の、卒業・修了前年度 2 月までの時期に関して、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合は 8 割以上と高く、時期設定がなされていることについて一定の効果が認められる結果となっている。

⑥企業からの学修活動等への配慮の状況について

～企業による学業等への配慮は一定程度なされており、改善の傾向がみられる

企業から学生の学修活動等への配慮の状況に関して、これまでの調査と同様に、いくつかの点で状況の改善が認められている。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によるスケジュールの変更等が行われた中で、「説明会や面接等の日程・時間帯等について配慮があったか」や「個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったか」については、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は 2019 年度調査と比較して上昇している。

いわゆる「オワハラ」（例えば、内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるよう強要された、など）を受けた割合は、2015 年度以降改善の傾向がみられ、内々定を受けた学生の約 9%となっている。また、就職活動の過程においてセクシュアルハラスメント行為を受けたことが「ある」と回答している学生は約 2%となっている。

(3) 本調査の主な結果

①就職活動に関する認識と学修時間確保の状況等について

<就職活動時期に関する認知の状況>

- ・就職・採用活動の時期が昨年度と同様の日程（広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降）であることを「よく知っていた」との回答割合が約4割と、2016年度調査～2019年度調査と比べ低くなっている。
- ・就職・採用活動の時期に関する情報源としては、「就職情報会社（情報ナビサイトなど）」との回答割合が約7割と最も高く、2016年度調査～2019年度調査と比べ高まっている。
- ・就職・採用活動の時期に関する情報を知った時期は、「卒業・修了前年度の8月以前」との回答割合が約4割と最も高い。

<就職活動時期に関する認識>

- ・就職・採用活動の時期が昨年度と同様の時期（広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降）に設定されたことについて、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」という点で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が約6割、「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」「夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ」などの点では約5割と高い一方で、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から行われた緊急事態宣言等の影響により、見込んでいた時期よりも就職・採用活動の実施時期を遅くする企業があり混乱した」についても回答割合が約7割と高い。
- ・いわゆる「就活ルール」について、「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」との回答割合は約4割となっている。「ルールは必要ない」との回答割合は約3割で、2019年度調査と比較すると高くなっている。

<学修時間の確保の状況>

- ・学修時間の確保の状況について、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合は、広報活動開始時期前の2月までは8割以上と高く、広報活動開始時期後の3～5月の時期には5割以下まで低下しているものの、採用選考活動開始時期後の6月は約5割、7月は約6割まで上昇している。
- ・採用選考活動開始時期が卒業・修了年度の6月となった2016年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査は広報活動開始時期前の2月までの時期については学修時間が確保できたと回答した者の割合が低くなっており、卒業・修了前年度の3月～卒業・修了年度の5月の時期については高く、7月については低くなっている。

②就職活動内容・活動時期について

<業界や企業に関する分析の開始時期>

- ・業界や企業に関する分析を開始した時期は、卒業・修了前年度の6月以前の回答割合が約2割と最も高い。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、より早期に準備を行う傾向がみられる。

<企業説明会やセミナー等の参加状況>

- ・企業説明会やセミナー等に「最初に参加した時期」は、広報活動開始時期前である「2019年6月以前」の回答割合が約2割と最も高い。「参加のピーク」「最後に参加した時期」については「2020年3月」との回答割合が最も高い。

- ・2015年度調査～2019年度調査と比較すると、特に「最初に参加した時期」について、今年度調査ではより早期の回答割合が上昇している。
- ・企業説明会やセミナー等に参加した回数について、20社未満の回答割合が約5割、30社未満の回答が約7割であり、2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では20社未満の回答割合が上昇している。

<エントリーシートの提出状況>

- ・エントリーシートを「最初に提出した時期」は、広報活動開始時期である「2020年3月」の回答割合が約3割と最も高い。「提出のピーク」も「2020年3月」の回答割合が約5割と最も高くなっている。「最後に提出した時期」については、「2020年4月」の回答割合が約2割と最も高い。
- ・2015年度調査～2019年度調査と比較すると、「最初」は3月の回答割合が低下してより早期の回答割合が高くなっている。また、「ピーク」については2019年度とほぼ同様となっており、「最後」については3月以前や7月以降の回答割合が若干高くなっている。
- ・エントリーシートの提出数について、「10～19社」の回答割合が約3割と最も高い。2019年度調査と比較すると、「1～4社」や30社以上の回答割合が上昇している。

<採用面接の実施状況>

- ・「最初に受けた採用面接の時期」は、広報活動開始時期である「2020年3月」の回答割合が約3割と最も高い。「採用面接のピーク」は、採用選考活動開始時期である6月の前の「2020年4月」の回答割合が約3割と最も高い。「最後に受けた採用面接の時期」については、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が3割と最も高い。
- ・2015年度調査～2019年度調査と比較すると、「最初」「ピーク」「最後」のいずれについても、今年度調査では時期が若干早まっているが、「ピーク」と「最後」は累積割合でみると4月以降に過年度調査と同程度かそれ以下になっており、特に「最後」については7月以降の回答割合が若干高くなっている。
- ・採用面接を受けた企業数について、10社未満の回答割合が約5割、20社未満の回答割合が約8割であり、2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では「1～4社」との回答割合が高くなっている。
- ・「最初に受けた採用面接の時期」から「最後に受けた採用面接の時期」までの期間は、「3ヶ月間程度」の割合が約2割と最も高い。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、面接の期間がより長い期間であった者の割合が高くなっている。

<内々定の状況>

- ・最初に内々定を受けた時期は、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が約2割と最も高くなっている。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では3月までは過年度調査の回答割合を上回り、内々定の時期が若干早まっているが、4月～5月の時期の回答割合は低くなっている。
- ・複数社から内々定を受けた者について、「就職予定の企業の内々定を受けた時期」は採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が約4割と最も高い。
- ・就職予定の企業からの内々定の時期について、その企業に対する志望度に関わらず、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が最も高くなっている。

- ・複数社から内々定を受けた者の場合、企業の規模（従業員数）について、「最初に内々定を受けた企業」よりも「就職予定の企業」の方が相対的に大きい企業である割合が高く、2015年度調査～2019年度調査と同様の結果となっている。
- ・内々定の辞退の方法について、「自分で電話し、辞退した」が約8割、「自分でメールし、辞退した」が約3割となっている。

<採用試験・面接等を受けた経路>

- ・どのような経路で採用試験・面接等を受けたかについて、「自由応募（ウェブサイト等からのエントリー等）」が約9割、「インターンシップに参加した会社側からの案内（リクレーター、大学のOB/OG、リファラル採用等）」が約4割となっている。2019年度調査と比較すると、「インターンシップに参加した会社側からの案内」の回答割合が高くなっている。

<就職活動の期間>

- ・「就職活動が始まったと考える時期」は、広報活動開始時期である「2020年3月」の回答割合が約2割と最も高い。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、3月の回答割合が比較的高いのはこれまでと同様であるが、卒業・修了前年度の9月以前の回答割合が上昇し、3月の回答割合を上回っている。
- ・「就職活動が終わったと考える時期」は、採用選考活動開始時期である「2020年6月」の回答割合が約4割と最も高い。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、今年度調査では4月～6月の回答割合が過年度と同程度かそれ以下となっており、7月や「まだ終わっていない」の割合が若干高くなっている。
- ・「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」までの期間は、「4ヶ月間程度」の割合が最も高く、「同月内」から「4ヶ月間程度」までの割合を合わせると約3割となっている。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、「3ヶ月間程度以内」の割合が低く、「9ヶ月間程度以上」「まだ終わっていない」の割合が高くなっている。

<インターンシップの参加経験>

- ・インターンシップ参加経験がある者は約8割で、2015年度調査～2019年度調査と比較すると高くなっている。
- ・インターンシップ参加の時期は、大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」と「1月～3月」の参加割合が約5～6割と高く、次に大学3年生・大学院1年生の「10月～12月」の割合が約4割となっている。2015年度調査～2019年度調査と比較すると、それらの時期にインターンシップに参加したとの回答割合が高くなっている。
- ・参加したインターンシップのうち最長の日数は、「1日」との回答割合が約3割と最も高く、今年度調査は2019年度調査の結果とほぼ同様となっている。
- ・インターンシップに1回のみ参加したことがある場合で、その日数が半日間又は1日間であった割合は約6割となっている。また、インターンシップに複数回参加したことがある場合で、半日間又は1日間のインターンシップに参加したことがある割合は9割以上となっている。
- ・インターンシップへのすべての参加回数のうち、半日間又は1日間のインターンシップへの参加回数が占める割合は、約8割であった。2017年度調査～2019年度調査に比べ、この割合は上昇している。

- ・半日間・1日間のインターンシップでは約6割が、2日間以上のインターンシップでは約3割が「就業体験等を伴うものではなかった」との回答となっている。
- ・参加したインターンシップのうち、約3割が「採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた」との回答となっている。

<インターンシップの効果についての認識>

- ・インターンシップに参加して感じた効果について、「半日又は1日間のインターンシップ」、「2日間以上のインターンシップ」ともに、「業界・業種を理解することができた」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が9割以上と高くなっている。このほか、「仕事の内容を具体的に知ることができた」など、「良い影響」と考えられる事項について、「半日間又は1日間のインターンシップ」に比べ「2日間以上のインターンシップ」の方が「そう思う」との回答割合が高くなっている。

<新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響>

- ・企業説明会やセミナー等への参加時期について、「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」との回答割合は約2割、そのうち約7割が「新型コロナウイルス感染症の拡大が主な原因だと思う」と回答している。
- ・回答した学生が参加したすべての企業説明会やセミナー等のうち、参加方法が「ウェブ等のみでの参加」であった企業は約5割となっている。
- ・参加を予定していた企業説明会やセミナー等で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で1社以上開催が中止になったと回答した者は約7割、対面で実施されることを理由として自ら参加を1社以上取りやめたと回答した者は約3割となっている。
- ・エントリーシートの提出を予定していた企業で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響でエントリーの受付が1社以上中止になったと回答した者は約2割となっている。
- ・採用面接の時期について、「就職活動の準備を始めた頃に想定していた時期よりも遅い時期だった」との回答割合は約3割、そのうち約9割が「新型コロナウイルス感染症の拡大が主な原因だと思う」と回答している。
- ・回答した学生が受けたすべての採用面接のうち、実施方法が「ウェブ等のみでの実施」であった企業は約6割となっている。
- ・受けることが予定されていた企業の採用面接で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で1社以上実施が中止になったと回答した者は約2割となっている。
- ・秋採用や通年採用などといった機会の提供や情報発信が企業からされていたかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約4割となっている。また、秋採用や通年採用などの実施により今後採用面接を受ける予定の企業が、調査実施時点で1社以上である者の割合は約2割となっている。
- ・内々定を受けた時期が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、当初企業から案内されていた時期から後ろ倒しに「変更された」との回答割合は約3割となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、課題になったこととして、「企業説明会が延期・中止になる等、移動や対面での接点がなくなり、企業や仕事などの情報収集が十分にできなかった」との回答割合が約6割、「移動で公共交通機関を使うことに関し不安が大きかった」との回答割合が約5割となっている。

③企業による学業などに対する配慮の状況等について

＜履修履歴（成績証明書など）の提出の状況＞

- ・就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴（成績証明書など）を提出することがどの程度あったかについて「多くの企業で提出した」の回答割合が約 3 割で、2016 年度調査～2019 年度調査と比べると低くなっている。

＜採用面接の際の学業や成績等への評価＞

- ・採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業の取組や成績等の質問を受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについて「評価に深く関係していると感じた」と「評価にある程度関係していると感じた」を合わせた回答割合は約 5 割で、2015 年度調査～2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。

＜就職活動の日程・時間帯等に関する配慮＞

- ・説明会や面接等の日程・時間帯等について配慮があったかに関して、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約 7 割となっている。また、個別の面接日時等の設定に当たり配慮があったかについては、約 8 割となっている。2016 年度調査～2019 年度調査と比較すると、今年度調査では特に「多くの企業で配慮していた」の回答割合が高くなっている。

＜遠隔地への就職活動への配慮＞

- ・地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮があったかについて、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合が約 7 割となっている。2016 年度調査～2019 年度調査と比較すると、今年度調査では特に「多くの企業で配慮していた」の回答割合が高くなっている。

＜クールビズでの就職活動＞

- ・面接の実施にあたり、クールビズでの対応が認められていたかについて「多くの企業で認められていた」と「ある程度の企業で認められていた」を合わせた回答割合は約 6 割で、2016 年度調査～2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。

＜留学経験者への配慮＞

- ・留学の予定等に影響があったかについては、約 2 割が「留学する考えがあったが、就職・採用活動の設定時期により、留学を取りやめた」と回答しており、2016 年度調査～2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。
- ・就職・採用活動期間中に留学を実際に行っていた者が就職を希望した企業において、留学経験者が不利にならないような配慮があったかについては、約 4 割が「多くの企業で配慮していた」または「ある程度の企業で配慮していた」と回答しており、2019 年度調査と概ね同様の結果となっている。
- ・留学と採用選考の時期が重なることで、面接日程の配慮を求めた際の対応状況について、「配慮を求めた企業のほぼ全てが対応してくれた」と「対応してくれた企業のほうが多い」を合わせた回答割合は約 6 割で、2019 年度調査と比較すると低くなっている。

＜ハラスメント行為＞

- ・他の企業等への就職活動の終了を強制するようなハラスメント的な行為（いわゆる「オワハラ」）を受けた経験について、約 1 割が「ある」と回答しており、2015 年度調査～2019 年度調査と比較すると若干低下している。

- ・企業等からの「オワハラ」でどのような行為を受けたかについては、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された（早めに内々定を受ける旨の返答をしない場合には、内々定を取り消すと言われたなど）」との回答割合が約7割となっている。
- ・「オワハラ」を受けた時期は「6月前半」の回答割合が約3割、「6月後半」の回答割合が約2割となっている。2016年度調査～2019年度調査と比較すると、「3月以前」や「6月後半」以降の回答割合が高くなっており、「4月前半」から「6月前半」の時期の回答割合が低下している。
- ・就職活動の過程でセクシュアルハラスメント行為を受けた経験について、「ある」の回答割合は1.5%となっている。
- ・セクシュアルハラスメント行為を受けたタイミングとしては、「就職採用面接を受けたとき」の回答が約6割、「企業説明会やセミナーに参加したとき」が約1割となっている。